

流域治水と河川環境のインパクト・レスポンスを体感するアクティブラーニング ～京都府宮津市大手川における小さな自然再生研修会の紹介～

水循環・まちづくり・防災グループ 主任研究員 和田 彰

1. 流域治水、河川環境の理解と小さな自然再生

令和5年8月、流域治水の自分事化検討会より提言「水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす総力戦の流域治水をめざして」が示された。本提言では、「by ALLの流域治水」として、流域のみんなが、自然、産業を含む文化としての治水に取り組むことの必要性、特に取組に関わるきっかけは多様であり、治水の観点からだけではなく、利用や環境からのアプローチが流域治水の取組の幅を広げていくことが示されている。

また、令和6年5月に示された提言「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方」では、河川環境の目標を定量的に設定すること、さらにその目標設定の対象として場づくりが求められるとともに、人材を育成するための研修体制の充実が喫緊の課題となっている。

当研究所では、河川環境や生態系の保全に関わる活動をきっかけとして、流域治水に取り組む民間の主体を増やし、さらに河川環境技術の向上を図り、ネイチャーポジティブかつウェルビーイングな地域づくりに貢献することを目的として、水辺の小さな自然再生の普及活動に取り組んでいる。

ここでは、令和6年2月に京都府宮津市を流れる大手川において地元関係者、地元外応援団と河川管理を担う実務者が連携して開催した小さな自然再生研修会について紹介する。

2. 大手川について

大手川は、約20年前の激特事業において、市民ワークショップによりワンドが計画されたが、整備予定地はその後土砂堆積により埋塞した。ワンドが計画された福田親水公園では近傍にある宮津天橋高等学校フィールド探究部が約4年前からワンド再生に向けた活動に着手し、人力での土砂の掻き出し等に取り組んできた。また、昨年度には高校生を応援する市民団体（大手川サポーターズ・クラブ）が結成され、河川を管理する京都府丹後土木事務所の協力を得てワンドの掘削が行われた。

3. 大手川での小さな自然再生研修会

研修会は、大手川・福田親水公園をフィールドに、現地活動主体（大手川サポーターズ・クラブ及び宮津天橋高校フィールド探究部の高校生）、河川管理を担う職員（国土交通省福知山河川国道事務所、京都府丹後土木事務所）、及び専門家等が一堂に会し、

川の営力を用いてワンドを維持管理する小さな自然再生の技術や多様な主体との連携方法について参加者で学び合った。

研修会では、具体的に次の3つの作業を行った。

- ①土のうづくり
- ②ワンドへの導水路の整備
- ③ワンドへの流入量を増やすための大手川本川への環境水制（バープ工）の設置



図 研修会の様子（令和6年2月28日）

なお、この大手川の実践形式の研修に先立ち、河川管理を担う国土交通省の職員を対象として座学研修も実施した。この座学研修では、地域連携に際しての留意点や小さな自然再生を活用した河川環境技術の紹介、また国が管理する大河川ではなかなか実感することが難しい河川のインパクト・レスポンスを自分のスケールで体感することを狙いとして中小河川をフィールドに実施することなどについて研修参加者と共有した。こうした工夫により、真冬の開催ではあったものの、本研修に対し評価する声を頂くことができた。

4. おわりに

当研究所では、リバフロサポートセンター内に小さな自然再生サポート窓口を設置し、全国の担い手の応援を通じて、by ALLによる流域治水や河川環境の理解に貢献する小さな自然再生の全国普及に引き続き尽力していく所存である。